

2020 年度活動報告書

2020 年 04 月 01 日～2021 年 3 月 31 日

【当会活動地の状況】

日本も参入する巨大天然ガス開発プロジェクトが進行。イスラム過激派のテロ攻撃が激化。

2017 年 10 月に当会活動地モザンビーク共和国カーボデルガド州で勃発したテロ攻撃は、2019 年後半から激化し、IS との関係組織である ISCAP (イスラム国中央アフリカ州) の関与に関する報道数が増え、月に 20 件の襲撃事件が起きている。2020 年 1 月に当会が設立当初から協働する農村アソシエーションの地域がテロ攻撃を受け、事務所や家屋、工場が焼かれ、代表が今もなお不明のままであり、その他の当会関係者の家屋の焼失、拉致等、被害を受けている。

これまでテロ攻撃により 2021 年 3 月時点で、子供を含む 2,600 名が惨殺され、67 万人以上が難民化している。当会事務局のあるカーボデルガド州の州都ペンバには 13 万人以上の避難民が流入し、失業率の悪化、治安の悪化、食料難、コレラの流行と混迷した状況である。

このイスラム過激派のテロ激化の背景には、日本企業も参入する巨大天然ガス開発があり、2024 年から天然ガスが算出されるようになるとその 3 割は日本企業が買取る計画になっている。残念ながら日本においては、資源開発とテロの関係性を報道するニュースがほぼ見られず、現地でテロの被害を受けながらも草の根活動を行う当会として、当会関係者の安全性を第一にしながら、現地で起きている事実を発信していく必要がある。

【2020 年度の活動方針】

テロとコロナと深刻な貧困の中、住民一人ひとりに確実に生きる実効力ある活動を継続。

最貧困国の中でも貧困地であるのにさらに貧困が深刻化していくという環境にあり、テロの脅威と新型コロナウイルス禍、さらには 2019 年からの懸念事項であるサイクロン上陸といった自然災害の猛威と、トリプル・ダメージがこの地を襲い、日々の暮らしの脆弱性が増しており、当会の活動の重要性が高まり、緊急支援活動の要請も増えている。当会のスラムの学び舎・寺子屋には既存以外の地区や、避難民の子供たちも通い、通所人数が 300 名ほどに増加している。2020 年度は、安全第一を徹底し、『安寧を手繰り寄せる活動』をテーマに、被災地から平和を訴える新たな活動に着手した。

まずテロの被害者・加害者を出さぬことを一番の目的とした、平和教育プロジェクトを始動である。加えて被災者支援計画として、緊急避難場所の設置、避難民の家の設置を決定、実施を始めた。

またテロとコロナの影響で渡航が困難なため、日本国内での活動として「資源開発とテロ」に関する講演を新型コロナ対策を行いつつ、日本事務局のある福岡県内のみで実施。新型コロナの感染状況を考慮しながら講演実施エリアを選定し、今後も地道に現地の生の状況を発信する活動を行っていく。

2020 年度の活動に関して、引き続き、毎月日本事務局とモザンビーク事務局にてインターネットを用いたスカイプ会議及び役員会を実施した。

★2020年の事業目標★

安寧を手繰り寄せる。誰一人として失わない、実効力ある草の根活動を実施。

＜注力項目＞

注力1 ●新型コロナウイルス、コレラの流行を防ぐための感染予防対策。

注力2 ●テロの被害者・加害者にならないための、平和教育の始動。

注力3 ●テロ被災者緊急支援活動。

【2020年度の活動計画骨子】

＜組織基盤整備＞ 長期的な活動の持続可能な体制づくり。

- ・ モザンビーク行政認証共同組合の財務関係書類整備
- ・ 事務局及びスラムの学び舎・寺子屋の設備整備と防犯強化
- ・ 広報活動の強化

＜教育活動＞ ペンバ市・スラムの学舎・寺子屋及び事務局での教育活動。

- ・ 事務局と寺子屋のこども教育の継続。奨学用品の配布
- ・ 【NEW】平和教育プロジェクトの始動

＜公衆衛生と食育農業活動＞ 基本的衛生知識教育の普及と実践活動、食育及び農業活動。

- ・ こども公衆衛生・COVID-19 感染対策教育
- ・ モリンガとフルーツの育成による食べられる緑化

＜緊急支援活動＞ かけがえない命を守る活動。

- ・ 食料・衣料配布活動
- ・ 【NEW】寺子屋避難場所整備活動（ナンプラ寺子屋）
- ・ 【NEW】ペンバ避難民の家・Casa de Paz の設置活動

＜環境保全活動＞ 美化習慣づけによる疾病予防と環境美化及び自然環境保全。

- ・ ペンバ環境美化活動（第5回）

＜国際相互理解推進活動＞ モザンビーク北部の実情を発信し、関心を高める活動。

- ・ 日本における「資源開発とテロ」をテーマとした公演、講義活動

【2020 年度の主な活動】

● 組織基盤整備

長期的な活動の持続可能な体制づくり。

《モザンビーク政府認証共同組合の財務関係書類整備》

モザンビーク政府認証共同組合（Progresso para Viver em Moçambique : PVM、代表：Luis Valerio、法人番号：101186768、設立 2019 年 6 月 24 日）の納税番号取得、銀行口座開設等、財務関係書類を整備。資金調達のための情報収取をモザンビーク人スタッフが主体となって行い、社会貢献活動へのモチベーションやスキルを高めていく。

《事務局及び寺子屋の設備整備と防犯強化》

寺子屋の門扉や防犯柵、地下タンク、貯水プラスチックタンクを修理。スラム地区へ過激派が避難民とともに混在流入し、治安が非常に悪化しているため、防犯設備も強化する。



鉄門扉の修理



地下タンクの修理



地上タンクの取替え

《広報活動の強化》

2020 年 1 月からインターネットを活用した寄付システムの強化と、紙媒体の広報ツールの整備を実施。

（従来の主な広報ツール）

- ・ 毎月発行するマンスリーニュースレター（電子媒体メイン、紙媒体）
- ・ 寄付プラットフォームサービス「シンカブル」

（2020 年度から開始した広報ツール）

- ・ A4 チラシ「寺子屋キッズの 8 年の歩みと寄付募集」
- ・ A4・20P 小冊子「モザンビーク共和国カーボデルガド州ペンバにおけるテロ被災者支援活動」
- ・ 社会問題と向き合う人のクラウドファンディング「GoodMorning」
- ・ 海外からの寄付に対応する決済・送金サービス「PayPal」
- ・ （企業との連携）NCK 株式会社：ワンコイン笑顔をもらおうキャンペーン
- ・ （企業との連携）さくらフォレスト株式会社：通販商品への寄付募集チラシの同梱





「Good Morning」トップページ



「ペンバにおけるテロ被災者支援活動」小冊子



A4 寺子屋キッズの歩みと寄付募集チラシ

【 教育活動 】

ペンバ市スラムの学舎・寺子屋及び事務局での教育活動。

《事務局と寺子屋のこども教育の継続。奨学用品の配布》

テロによる食糧難、避難民のスラムの各家庭への移住、失業率の増加により、一日の食費を賄うのも困難な状況であり、子供たちへの奨学用品が家庭で買えなくなっているため、筆記用具や履物、教育費用の補填を行った。

なお、寺子屋には既存の子供たちの他、他エリアからの新規の子供たち、避難民の子供たちも通所しており、前年度の二倍に当たる 300 名が通所している。新型コロナウイルス感染対策を行いながら、15-20 人に人数を分け、授業の実施計画を立てたが、寺子屋に押し寄せる子供たちの数が多すぎて、少人数での授業が難しい日も多くなった。

また、日本事務局と寺子屋をオンラインで繋ぎ、現地／海外では入手しにくい新型コロナウイルスやテロに関する情報共有を互いに行っている。



【NEW】《平和教育プロジェクトの始動》

イスラム過激派によるテロ攻撃の激化により当会活動地カーボデルガド州ではこれまで 2,600 名以上が死亡し、67 万人以上が難民化。90 万人が食糧難に瀕している。当会関係者も被害を受けているが、家屋の焼失、拉致、レイプといった事件も多発している。

イスラム過激派のリクルート活動も陰で行われており、また当会の寺子屋及び事務局に通う子供たちは 3 分の 2 がイスラム教徒のマクワ族、3 分の 1 がキリスト教徒のマコンデ族と、宗教の違いがあるため、世界的に問題になっているイスラムフォビア（イスラム恐怖症）といった偏見や差別が起こらぬように、平和教育プロジェクトを開始。

被災地から『平和に生きる権利』の歌の制作と発信を実施し、モザンビーク北部での惨状を世界に訴求。但し、イスラム過激派に目をつけられることを避けるため、現地での情報発信は控えた。



子供コーラス隊の打ち合わせ



レコーディング



現地のアーティストも複数参加

★『平和に生きる権利』モザンビーク・ペンババージョン YOUTUBE URL
<https://youtu.be/G5zhMOQHuk>

【 公衆衛生と食育農業活動 】

基本的衛生知識教育の普及と実践活動、食育及び農業活動。

《こども公衆衛生・COVID-19 感染対策教育》

2017 年度から数えて第 4 回目となるこども公衆衛生教育では、寺子屋と事務局に通う子供たちのコレラ感染率をゼロする成果を上げている。石鹸での手洗いや爪切り、歯磨き、トイレ掃除等での洗剤の使用方法を教え、新型コロナウイルス感染対策として、マクスやアルコールの配布も行い、正しい感染予防の知識を供与した。但し、モザンビークにおいて PCR 検査数が少なく、実際の陽性者数は分かっていない。2020 年秋頃からペンバ住民の新型コロナ感染に対する意識が薄くなっており、大人がマスクを着用していないため、with コロナ時代のマスク着用を習慣化するためのルールづくりを寺子屋独自で行ったが、2021 年度も引き続き実施し、習慣づけを強化する必要がある。



若年層への感染力も強い変異株も流行しているため、年少組にもしっかり新型コロナウイルスについて説明。

《モリンガとフルーツの育成による食べられる緑化》

栄養失調率が 6 割を超えるスラム地区でも栽培可能な栄養価が高く、食用・薬として様々な活用できるモリンガと、フルーツを播種栽培し、約 1800 本をスラム地区の各家庭に移植。これまでサイクロンや暴風雨により育苗ポットが流される、移植した苗が流される等の被害を大きく受けているため、育苗する場所を分散することにより、苗の保護率を高めた。



スラムのナティティ地区のお母さんたちが播種育成。 移植。 去年移植したモリンガとグアバも成長。

【 緊急支援活動 】

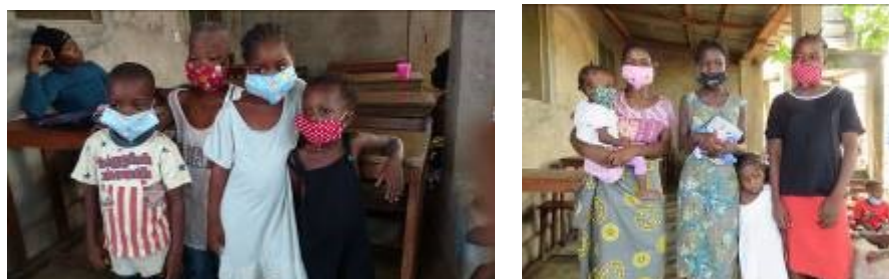
かけがえない命を守る活動。

《食料・衣料配布活動》

2020 年 1 月から開始した米・豆・調味料の配布を毎月継続。二週間毎に 20 世帯に食料を配布。
現地は日本も含めた天然ガス開発国からの支援が入っているが、実際に現地で支援の恩恵を受けているのはごくわずかで、ナティティ地区の貧困度はさらに高くなり、1 日 1 食を確保するのも大変な家庭が増えているため、2021 年度も引き続き、食料配布を行う。
また日本から国際小包で輸送した古着の配布も行った。



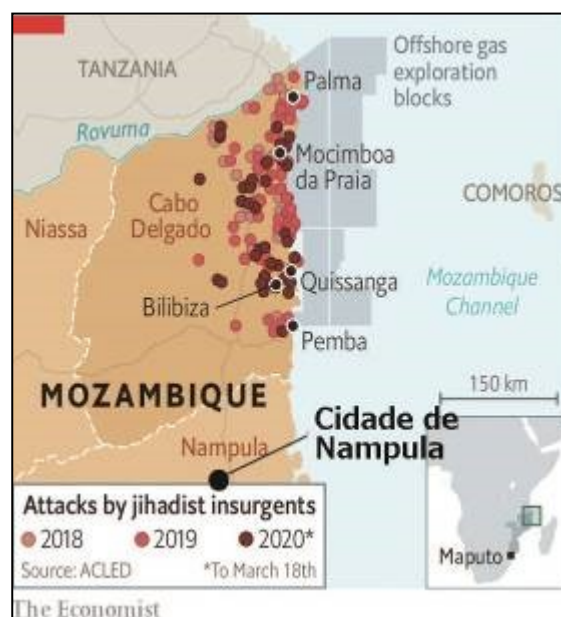
当会はナティティ地区の家庭状況を把握しているため、家計が厳しい家庭をピックアップし 1 対 1 で食料配布。



日本から届けられた古着を着用した子供たち。

【NEW】《寺子屋避難場所整備活動》

イスラム過激派のテロが激化し、ペンバへ 13 万人以上の避難民が流入しているが、ペンバへの攻撃に備えて、ペンバから他の州に避難している人も増加しており、当会も他地域に親類や身を寄せられる知り合いがいない寺子屋関係者や近隣住民のために、カーボデルガド州の南に位置するナンプラ州に寺子屋の避難施設（仮：ナンプラ寺子屋）整備のための調査と選定を開始。
2021 年度にかけて施設整備をし、ナンプラ寺子屋の名称で活用する。



【 環境保全活動 】

美化習慣づけによる疾病予防と環境美化及び自然環境保全。

《第5回ペンバ環境美化活動》

第5回となるペンバ環境美化活動を実施。第4回より女性の美化委員も加え、精力的な仕事を発揮したため、女性を増員して、美化委員 15 名中 10 名を女性を起用し、美化活動を実施した。

新型コロナウイルスの感染拡大を予見し、N95 マスク（現在は販売無し）を入手し、アルコールでの手指の消毒も徹底し、安全に環境美化活動を完遂した。



事前に美化委員長が見回りし、清掃地区を選定したうえで、美化活動を円滑に実施。女性の活躍が目立った。

【 国際相互理解推進活動 】

モザンビーク北部の実情を発信し、関心を高める活動。

《日本における「資源開発とテロ」をテーマにした公演、講義活動》

当会活動地カーボデルガド州で発生しているテロに関して、またそこで行われている日本企業も参入する日本のエネルギー安全保証の施策のひとつと言っても過言ではない巨大天然ガスパロジェクトに関して、日本ではほとんどニュースに流れず、注目度が非常に低い。日本ではそもそもモザンビーク自体の知名度が低いため、少しでも多くの日本人に現地で起きている事実を知ってもらい関心を持ってもらうために、新型コロナ対策を考慮し日本事務局のある福岡県内のみで、講義公演活動を実施した。



北九州商工貿易会館での講義（11月）



嘉穂劇場アフリカンフェスタでの公演（7月）



田川市源じいの森温泉口では、9月と12月に公演を実施。

他、ZOOMでのオンライントークイベントも4回実施した。

●オーストラリア社会活動家・Caiaさんによるモザンビークの現状と当会活動ロングインタビュー
タイトル「モザンビーク いのちをつなぐ会 榎本恵さんインタビュー」

<https://youtu.be/UZIUB7WwEGw>



●新時代創造 WEB マガジン” Re・rise News” に関わる(株)森のエネルギー研究所の大場龍夫さんに
人生の歩みと夢についてインタビューしていただきました。

タイトル「アフリカで現代の寺子屋を運営するモザンビークのいのちをつなぐ会 代表 榎本 恵さん」

https://rerise-news.com/education/megumi_enomoto/?fbclid=IwAR1Tb_xKZ5wwWAb7nCnYknx_t-aT0nNoe0P_AgN-YLVNtVGxuDeG_jqONHc



以上

団体名: 一般社団法人モザンビークのいのちをつなぐ会

2020年度会計報告書

2020年04月01日～2021年03月31日

(単位:円)

科 目	金 額		
I 経常収益			
1. 受取会費		20,000	
2. 受取寄付金		2,305,000	
3. 助成金/11団体・基金		7,641,000	
経常収益計			9,966,000
II 経常費用			
1. 事業費			
(1)人件費			
モザンビーク人アルバイト費	1,702,644		
モザンビーク事務局人件費	232,002		
国際交流日本人アーティスト人件費	30,000		
人件費計	1,964,646		
(2)その他経費			
●寺子屋・事務局設備整備			
修理修繕資材費	148,892		
委託(職人・管理)費	591,134		
●寺子屋・事務局教育費			
平和教育委託費	187,002		
資料・授業用品購入費	988,355		
国際郵便輸送費	45,600		
消耗品(水、インク等)費	120,080		
●公衆衛生・食育農業活動			
公衆衛生資材購入費	519,829		
農業資材購入費	698,005		
●環境保全活動			
機材購入費	882,323		
ワークショップ委託費	42,309		
●国際相互理解推進活動			
日本国内旅行交通費	52,820		
広告印刷費	23,500		
機材購入費	150,884		
●コマルト設備整備費			
建築費	398,162		
委託(職人・管理)費	192,430		
設備整備費	48,922		
●サロ・コロナ緊急支援活動			
資料・食材購入費	1,379,002		
避難場所調査費	102,455		
●渡航費			
メンバー福岡渡航費	878,452		
モザンビーク国内交通費	6,520		
モザンビーク国内宿泊費	29,991		
PCR検査費	28,500		
●通信費			
モザンビーク国内通信費	39,820		
郵便輸送費	24,955		
その他経費計	7,554,987		
事業費計		9,519,633	
2. 管理費			
(1)人件費			
寺子屋ガード人件費	82,545		
人件費計	82,545		
(2)その他経費			
車両修繕費	38,280		
広報物制作費	152,788		
事務局貸借費	226,719		
その他経費計	417,787		
管理費計		500,332	
経常費用計			10,019,965
当期正味財産増減額			△ 53,965
前期繰越正味財産額			62,048
次期繰越正味財産額			8,083